

地域の伝統工芸と連携した森林教室の取り組み

木曾森林管理署南木曾支署 森林ふれあい係長 ○ 技術専門官

もりた たけし
森田 武士
たかい ひろき
高井 宏己

要 旨

昨今、国民の間で森林整備活動への関心が高まり、木の文化の継承も叫ばれる中、国有林では平成14年度より「木の文化を支える森づくり」活動の場を提供し、活動の支援をしています。そこで当支署では木材利用の推進を図るため、地域の木の文化と森林教室を組み合わせ、森づくり活動の一環である木の文化のPRに繋がる森林教室を実施しました。

はじめに

南木曾町は木曾谷南部に位置し、森林率は94%あり、その内70%が国有林となり、古くから木材産業のさかんな地域です。その中でも国道256号線沿いは工芸街道と呼ばれ、広瀬地区の「ろくろ細工」(写真-1)は国の伝統工芸品に、蘭地区の「桧笠」(写真-2)は県の伝統工芸品に指定されています。これら伝統工芸産業は地元国有林材を中心に使い伝統工芸技術の継承に努めてきましたが、最近では国有林資材の確保と後継者の育成、さらに伝統工芸のPRと需要拡大が課題となっています。



写真-1 ろくろ細工

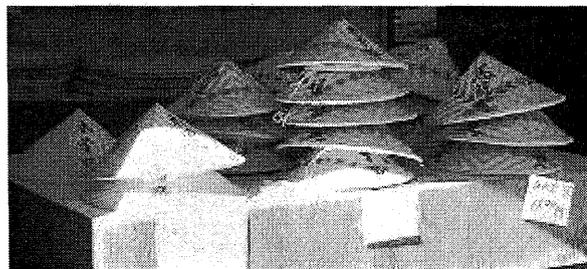


写真-2 桧笠

1 今回の森林教室の目標

今回の森林教室では、これまでの森林に興味を持ってもらい森林の役割、林業や国有林の理解を深めてもらう事に加え、木製品の良さを普及するため、新たに木への興味から木の文化への理解を深めてもらう目標を設定しました。

2 これまでの森林教室の方法

これまでの森林教室では、森林に興味を持ってもらうためネイチャーゲームや木工クラフトなどを通し、食べる・触れる・遊ぶ森林体験を中心に行いました。その中で子供の印象に残るものとして、酸っぱいスノキの葉や甘いタムシバの葉などを使い、五感を使って山の楽しさを感じてもらうためフィールドビンゴ(写真-3)などを行ってきました。

子供達の感想は「おもしろい木や酸っぱい葉っぱ、甘い葉っぱな

フィールド・ビンゴ

カードNo. 2

木の葉っぱ	木の葉っぱ、葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ
木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ
木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ
木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ
木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ	木の葉っぱ

写真-3

どが分かって楽しかった」「知らなかった木の名前や木曾五木の名前を知る事が出来ました」などの感想があり、感想文を読むとほとんどの子供が楽しい、おもしろかったと回答していました。これまでの森林教室では、五感を使い子供達の森林への興味を引く事には成功しましたが、森林と林業、さらに地元産業との関わりまでを理解させるには至りませんでした。

3 実施に向けた計画内容

今回、蘭地区青少年育成会の方より国有林内のハイキングの案内をしてほしいと要請があり、そこで今までの森林教室の手法を活かし、木の文化にふれあってもらう事も目的に加え、森林教室を計画しました。ハイキングでは、地元の国有林に親しみを深めてもらうため、中京圏からの登山客も多い南木曾岳登山道で森林教室を行いながら樹名板(写真-4)を設置してもらい、また、同じ地区にある桧笠の体験を通して伝統工芸への理解を深めてもらいたいと考えました。



写真-4 樹名板

桧笠にはメインの商品である桧笠の他に靴の中敷き、うちわなど(写真-5)もありますが、その中で子供達でも短時間で出来る物として桧笠の編み方を使ったコースターがいいだろうと桧笠生産組合員の方たちより助言をいただき、コースター作りから木製品へ興味を持ってもらう事にしました。



写真-5 桧笠製品

4 伝統工芸と併せた森林教室の実施

当日の森林教室では、今回参加者が大人から子供までと幅広い層で、参加者の体力に合わせたコースを選定し、全員が樹名板を付けられるよう配慮しました。午前中のハイキングで南木曾岳の登山道入り口付近に、親子で樹名板約30枚を順番に付けてもらいました。(写真-6)

樹名板を付けながらの説明では、ほうば巻きとして地元では親しみの深いホオノキの話や、ミズナラはドングリが実り、ドングリは動物のエサとなる事。キハダの皮は胃腸薬として効用があり、木曾では百草丸に使われ、薬の原料となる樹木でもあり、木材は家具のほか、ろくろ細工にもよく使われる事。また、五感を使って興味を引くためにキハダの皮をなめる体験も混ぜ、そしてヒノキは建築材の他、地元では伝統工芸品である桧笠の材料に使われ、国有林からも木材を供給している事などを説明しました。



写真-6 樹名板を付けながら自然散策

午後からは桧笠の材料となる「ひで」(写真-7)を使い、コースター作りを行いました。この日は

桧笠の方達は日程が合わず、講師として来てもらう事が出来ませんでしたので、事前に編み方を教わり、子供達に教える事としました。

子供達にとって桧笠が近くにあっても、ふれあう事がなく、今回初めて桧笠の材料を使う子供がほとんどでしたので、楽しんで作っていたように感じました。初めは時間内に出来ると思っていましたが、編み方が子供にとっては案外難しく、出来なかった子は自宅に持ち帰って作る形になってしまいました。

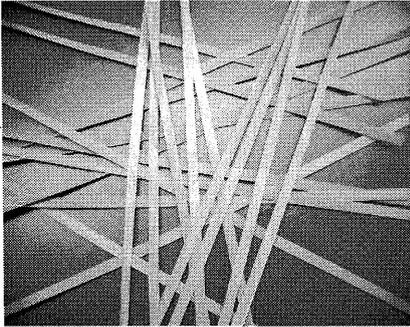


写真-7 材料となる「ひで」

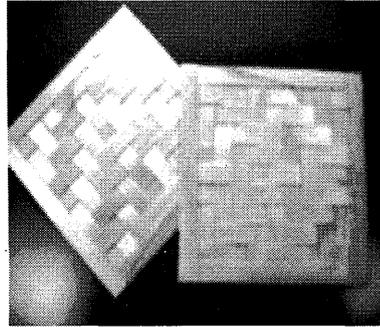


写真-8 桧笠のコースター



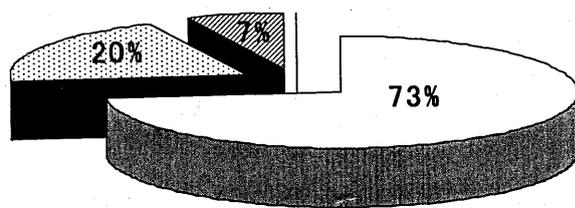
写真-9 コースター作りの様子

5 アンケート結果の分析

今回のハイキング参加者へアンケート調査を行い実施結果を分析しました。

(1) 森林への興味について

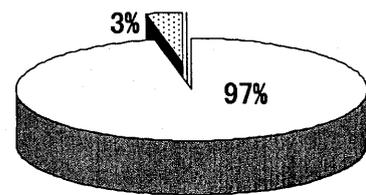
Q1 木の名前をもっと知りたいと思いませんか？



□ぜひ知りたい □知りたい □分からない □いいえ

図-1

Q2 樹名板付けをまたやってみたいですか？



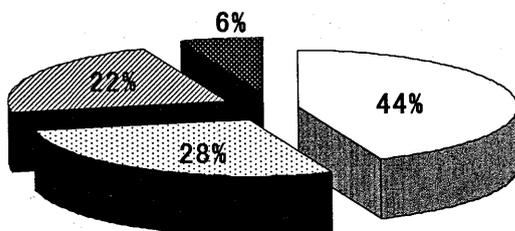
□またやりたい □別の事がしたい □分からない □やりたくない

図-2

質問1(図-1)については、ぜひ知りたいが73%となり、質問2(図-2)については、またやりたいたが97%となりました。参加者からも樹名板を付けながらの説明だったので興味が持てましたという感想もありました。

(2) 木製品への興味について

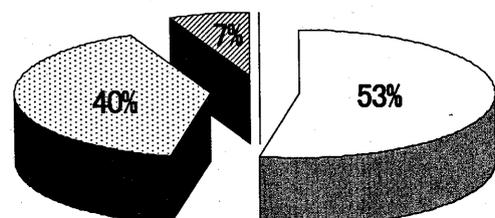
Q3 コースター作りは楽しかったですか？



□とても楽しい □楽しい □普通 □楽しなかった

図-3

Q4 コースター作りをまたやりたいですか？



□またやりたい □別の物を作りたい □分からない □やりたくない

図-4

質問3(図-3)について、とても楽しい44%、楽しい28%になりましたが、普通が22%、楽しくないが6%となりました。

質問4(図-4)については、またやりたい53%、別の物を作りたいが40%、分からないは7%となりました。

質問5(図-5)については、80%がよいと思う、20%が別々でもよいという結果になりました。今回の取り組みに対して理解は得られたものの、伝統工芸体験と森林教室を併せた背景を分かり易く教える事が今後の課題になると思います。

Q5 伝統工芸と併せた森林教室をどう思いますか？

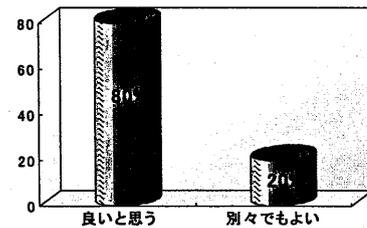


図-5

Q6 今後、森林教室でどのような事を教えていくのがよいですか？

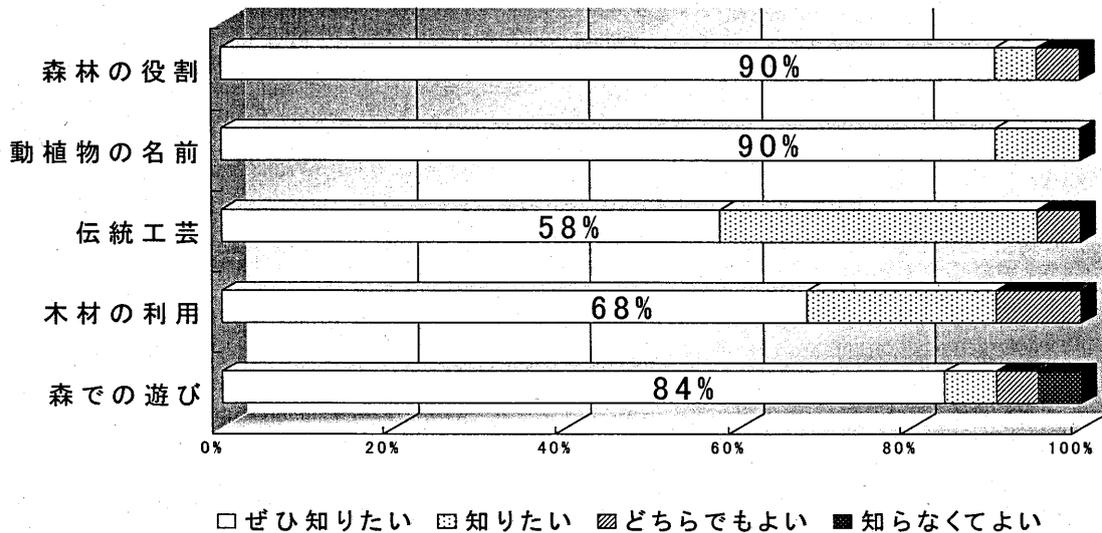


図-6

(3) 今後森林教室に求めるもの

質問6(図-6)に対して、ぜひ知りたいの割合が、今回行った森林の役割や動植物の名前については90%、しかし、今回重点を置いて実施した伝統工芸は58%、木材の利用は68%となり、森での遊びについては84%でした。全体としてはどの項目も好感触ですが、森林の役割、動植物の名前に比べ伝統工芸、木材の利用に対する満足度が若干低い結果と受け取れます。

6 今後の課題

今回のアンケート結果から良かった点

- ・五感を使った体験を通じ森林への興味を持たせられた
- ・樹名板を自分達で付けた事で樹木に関心を持たせられた
- ・伝統工芸に対する興味を得られた(身近にありながら日頃接する事のなかった伝統工芸を知る事が出来て大変良かったという意見もいただきました)

反省点

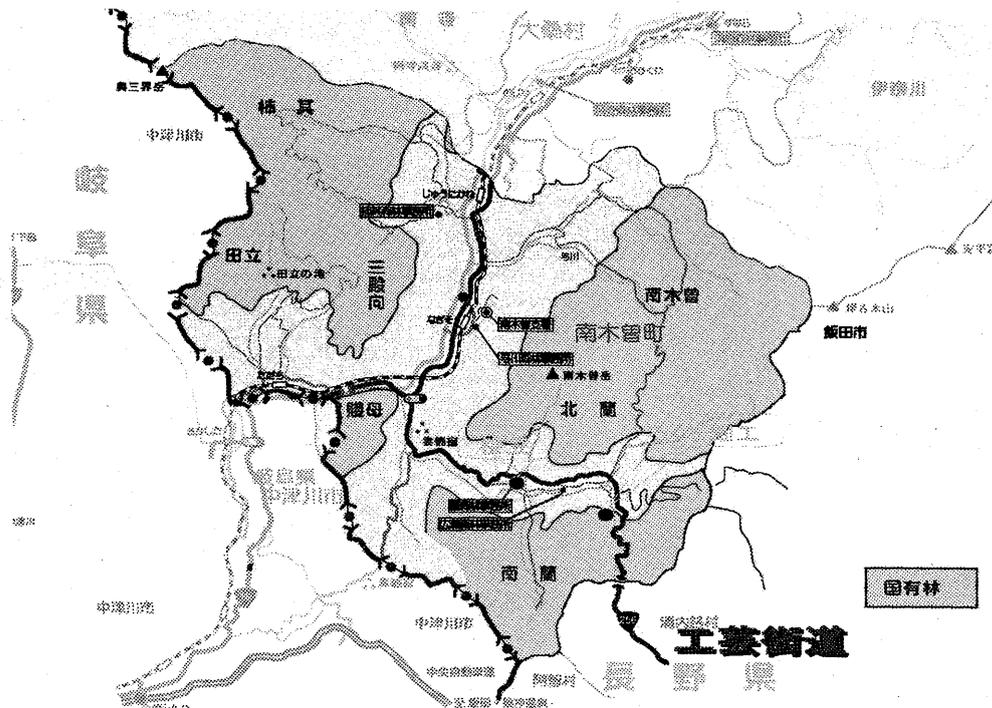
- ・コースター作りが難しく、時間配分に問題があった
- ・国有林と伝統工芸との関連付けが不十分であった

今後に向けて、伝統工芸と森林、国有林の繋がりを理解してもらうため、国有林の木が加工され伝統工芸品が作られるという流れを理解できるよう、具体的にはヒノキの丸太が桧笠の工場で「ひで」に加工される工程の見学、伝統工芸品の材料を実際に山から持ってくるなどの工夫が必要と考えます。

そして伝統工芸体験は誰でも簡単に時間内に作れる木工品とする工夫や、桧笠のコースター以外にも簡単に出来るようなるくろ体験なども組み込む事、そして伝統工芸の関係者の方にも積極的に参加してもらうなどの対応が必要となります。

おわりに

今回初めて伝統工芸体験を取り入れた森林教室を実施しアンケートを分析して、良好な結果が得られました。今後、伝統工芸と国有林との連携を強化するなど課題もありますが、この森林教室により、国有林のPR、伝統工芸の継承、地域の振興等これらを融合させる事が可能であると考えます。今回実施した結果から、地域により密着し、さらには地域文化と連携させた森林教室がこれからの国有林の発展、しいては地域全体の振興につながっていくものとするため、今後はより多くの人に、森林の大切さから木の良さまでの理解を深めてもらえるよう、森林教室を継続して行いたいと思います。



南木支署 位置図

(3) 館報なぎそ

平成 17 年 12 月 22 日 NO.234

樹子板を取り付ける

親子ハイキング

十月三十日(日)、公民館分館と南木青少年育成会では恒例の親子ハイキングを実施しました。当日は晴天に恵まれ、親子二十八名が参加しました。コースは南木曾岳の途中まで国有林のなかを歩くという事で、木曾森林管理署から岩間さんと森田さんに同行していただきました。森田さんには樹名板を用意していただき、コース途中の木に子供達といっしょに取りつけていきました。その都度、木の特徴等を説明していただき、子供達は木の名前を覚えられ、とても楽しく意義あるハイキングでした。

午後には分館に戻り、焼肉パーティーを開きました。その後、子供たちは森田さんの指導で木工作等にもチャレンジしました。

南木曾町の公民館報に取り上げられました